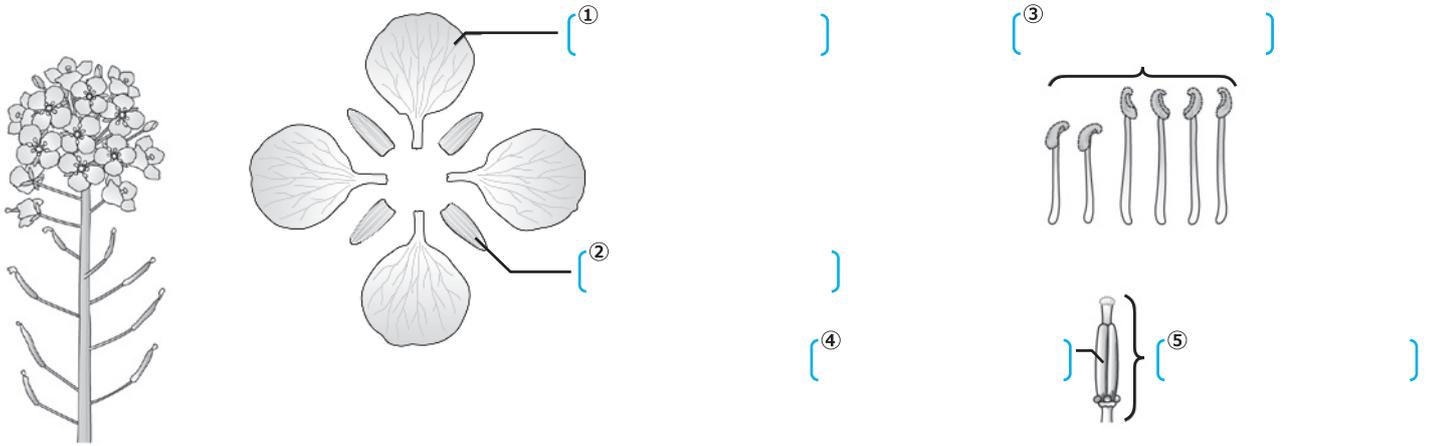


# 植物の体の共通点と相違点(1)

【1】下の図はアブラナの花を分解したものである。〔 〕に当てはまる言葉を  から選んで書きなさい。



■アブラナ

おしべ	めしべ	かべん 花弁	がく	しぼう 子房
-----	-----	-----------	----	-----------

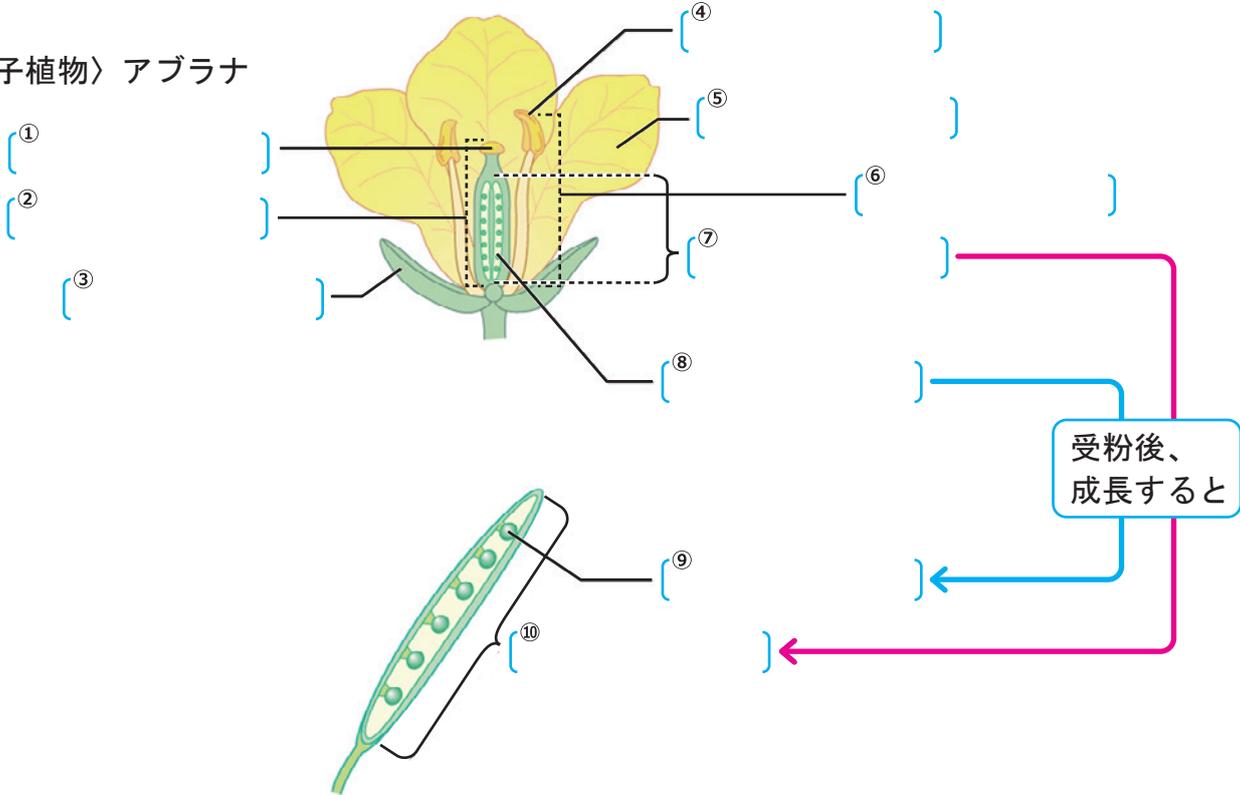
【2】次の文章は花のつくりとはたらきについて説明したものである。( )に当てはまる言葉を書きか、○で囲みなさい。

- (1) 花のつくりは、外側から順に、( ) → 花弁 → ( ) → めしべ の順についているものが多い。
- (2) めしべの先端の部分を( 柱頭・子房 )、もとのふくらんだ部分を( 柱頭・子房 )という。
- (3) 柱頭と子房の間の部分を( 花柱・胚珠 )といい、子房の中には( 花柱・胚珠 )という小さな粒が並んでいる。
- (4) おしべの先にある袋を( 花粉のう・やく )といい、ここに( )が入っている。
- (5) アブラナやエンドウのように花弁が1枚1枚離れている花を( 離弁花・合弁花 )といい、そのような花をもつ植物を( 離弁花類・合弁花類 )という。
- (6) ツツジのように花弁が一つにくっついている花を( 離弁花・合弁花 )といい、そのような花をもつ植物を( 離弁花類・合弁花類 )という。
- (7) アブラナのように、子房の中に胚珠がある花をもつ植物を( 被子植物・裸子植物 )という。
- (8) 柱頭に花粉がつくことを( )といい、そのあと子房はふくらんで( 果実・種子 )となり、胚珠は( 果実・種子 )となる。
- (9) マツの花はりん片が集まってできていて( 雄花と雌花・がくと花弁と子房 )がある。
- (10) マツの雄花には( 花粉のう・やく )という花粉の入った袋がある。花粉は( 風・昆虫 )によって遠くまで運ばれる。
- (11) マツの雌花には子房が( あり・なく )、胚珠がむき出しでついている。このような胚珠がむき出しになっている植物を( 被子植物・裸子植物 )という。

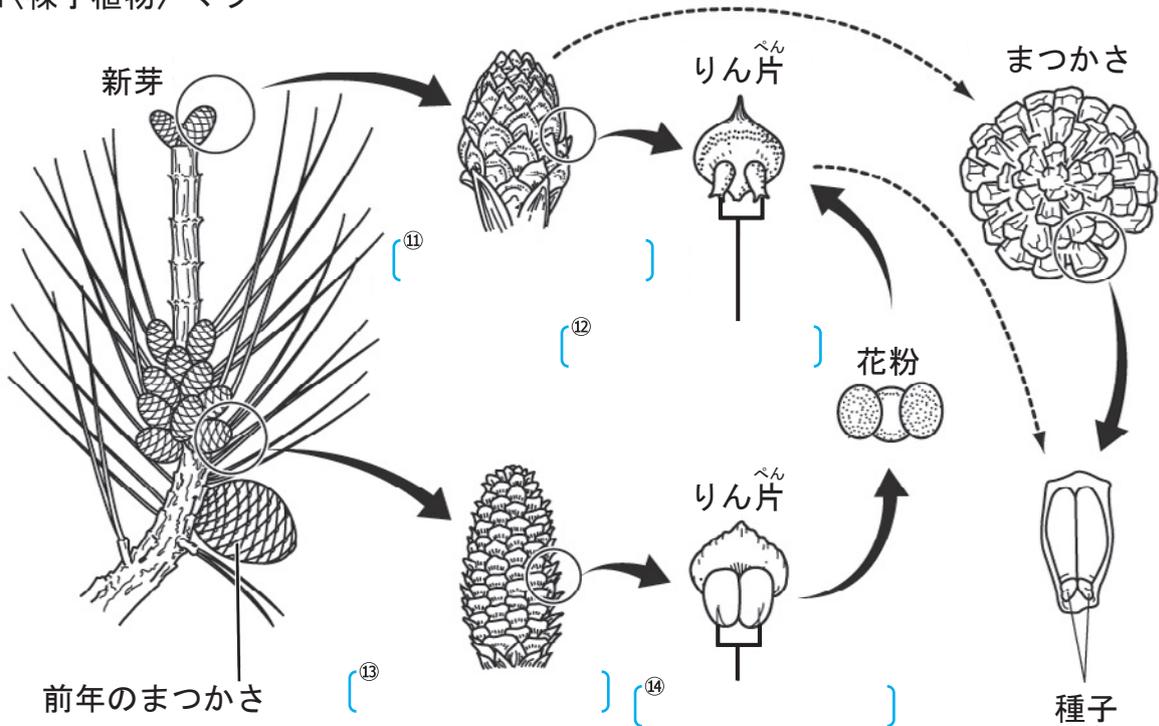
# 植物の体の共通点と相違点(2)

【1】次の図は被子植物と裸子植物の受粉の様子を表している。〔 〕に当てはまる言葉を  から選んで書きなさい。ただし同じ言葉を何度使ってもよい。

## ■〈被子植物〉アブラナ



## ■〈裸子植物〉マツ



種子	果実	ほうし 胞子	おしべ	めしべ	おぼな 雄花	めぼな 雌花	かべん 花弁
しほう 子房	しよう 子葉	はいしゅ 胚珠	がく	やく	花粉のう	ようみやく 葉脈	ちゅうとう 柱頭

## 植物の体の共通点と相違点(3)

【1】次の文章は被子植物の葉や根のつくりと、それらを観点とした分類について説明したものである。  
 ( )に当てはまる言葉を書くか、○で囲みなさい。

- (1) 葉に通っている筋を、( )という。
- (2) アブラナのように網の目状に広がる葉脈を( 網状脈・平行脈 )、ツユクサのように平行に並ぶ葉脈を( 網状脈・平行脈 )という。
- (3) 網状脈をもつ植物の根は、太い( 主根・側根・ひげ根 )から細い( 主根・側根・ひげ根 )が出ている。
- (4) 平行脈をもつ植物は、根本から多数の細い根が出ている。このような根を( 主根・側根・ひげ根 )という。
- (5) 子葉が2枚である植物のなかまを( 双子葉類・単子葉類 )、子葉が1枚である植物のなかまを( 双子葉類・単子葉類 )という。
- (6) 双子葉類の葉脈は( 網状脈・平行脈 )であり、根は( 主根と側根・ひげ根 )からなっている。
- (7) 単子葉類の葉脈は( 網状脈・平行脈 )であり、根は( 主根と側根・ひげ根 )からなっている。
- (8) 双子葉類は花のつくりの特徴からさらに( 被子植物と裸子植物・離弁花類と合弁花類 )の二つのなかまに分類できる。
- (9) 被子植物や裸子植物のように、花を咲かせ種子をつくって子孫を殖やす植物を( )植物という。

【2】次の文章は、種子をつくらない植物について説明したものである。( )に当てはまる言葉を書くか、○で囲みなさい。

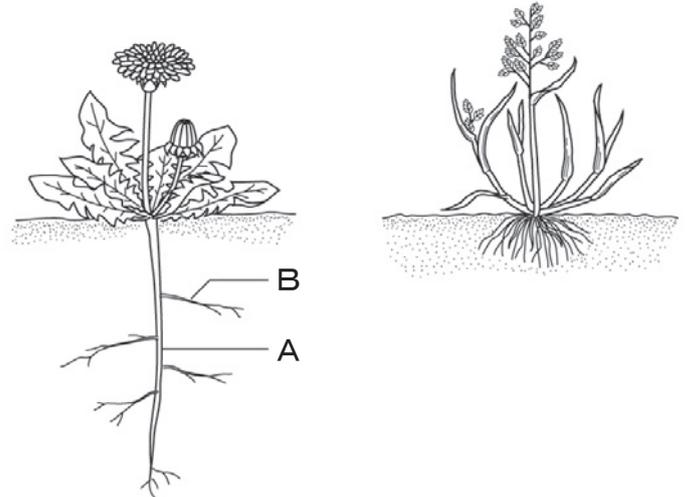
- (1) 種子をつくらない植物のうち、ワラビのように葉や茎と根の区別があるものを、( シダ植物・コケ植物 )、ゼニゴケのように葉や茎と根の区別のないものを( シダ植物・コケ植物 )という。
- (2) シダ植物とコケ植物は、花を( 咲かせない・咲かせる )。また、種子を( つくる・つくらない )。
- (3) イヌワラビやワラビの葉の裏側には( 胞子のう・花粉のう )という褐色の小さな袋があり、この中には( )が入っている。
- (4) コケ植物の多くは、( 日当たりの悪い湿った・日当たりのよい乾いた )場所で生活している。根のように見える部分は( 仮根・主根 )といい、からだを地面に固定するはたらきをしている。
- (5) ゼニゴケやスギゴケには、( 雌株と雄株・雌花と雄花 )があり、( 雌株・雌花 )に見られる胞子のうの中には、( )が入っている。

# 植物の体の共通点と相違点(4)

【1】右の図はタンポポとスズメノカタビラの根の様子を表したものである。以下の問題に答えなさい。

■タンポポ

■スズメノカタビラ



(1) タンポポの根は太いAと、Aから出る細いBからなっている。AとBをそれぞれなんというか。

A ( ) B ( )

(2) スズメノカタビラは、根本から多数の細い根が出ている。このような根をなんというか。

答え ( )

(3) タンポポのように網の目状に広がる葉脈をなんというか。

答え ( )

(4) スズメノカタビラのように平行に並んでいる葉脈をなんというか。

答え ( )

【2】右の図は被子植物の特徴を表にまとめたものである。以下の問題に答えなさい。

(1) アとイに当てはまる言葉を書きなさい。

ア ( ) イ ( )

(2) ウとエのような葉脈をそれぞれなんというか。

ウ ( ) エ ( )

(3) オとカに当てはまる植物を下の { } の中からすべて選んで書きなさい。

オ ( )  
カ ( )

	子葉	根	葉脈	例
ア 類	 1枚	 ひげ根	 ウ	オ
イ 類	 2枚	 主根と側根	 エ	カ

{ スズメノカタビラ、アサガオ、アブラナ、マツ、イネ、イヌワラビ、タンポポ、ツユクサ、ゼニゴケ }

【3】次の文章のうち、正しいものには○を、そうでないものには×を ( ) の中に書きなさい。

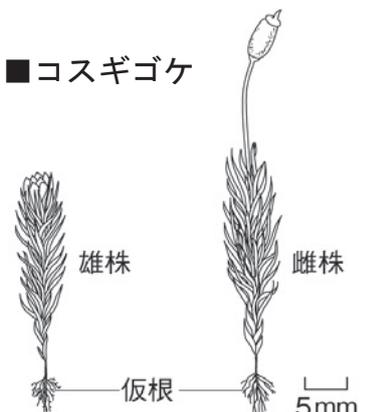
(1) シダ植物とコケ植物は種子をつくらない。( )

(2) イヌワラビのからだには葉、茎、根の区別がない。( )

(3) ゼニゴケには雌株と雄株があり、雌株だけに胞子ができる。( )

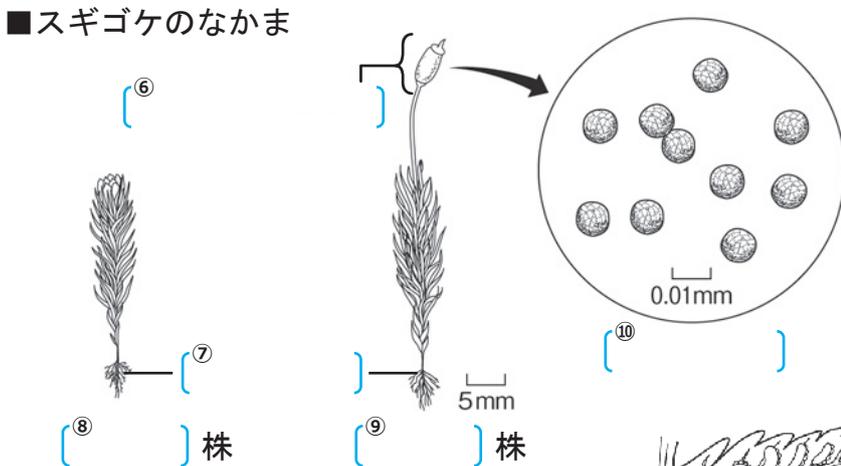
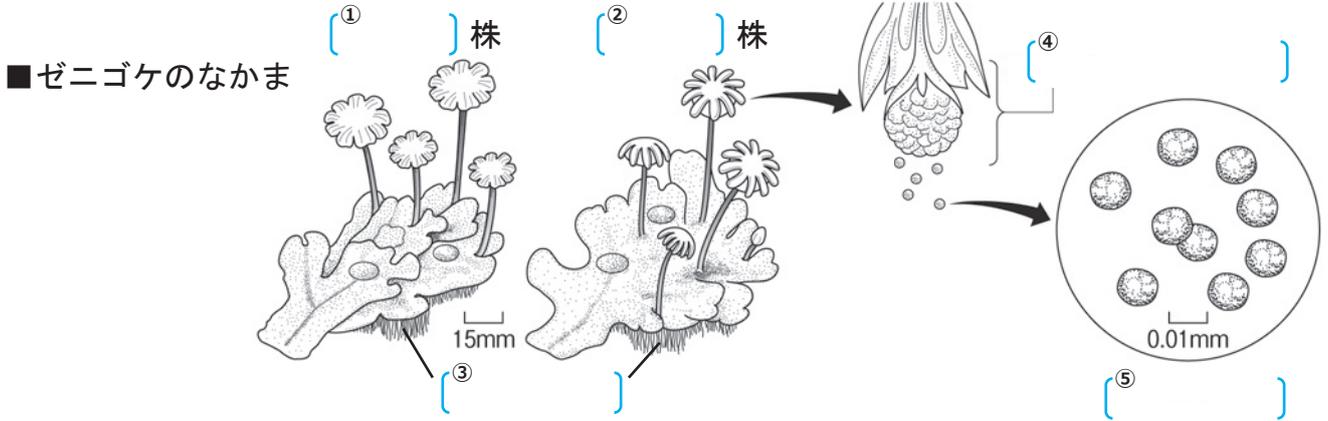
(4) コスギゴケの雌株の先端にあるのは花である。( )

■コスギゴケ

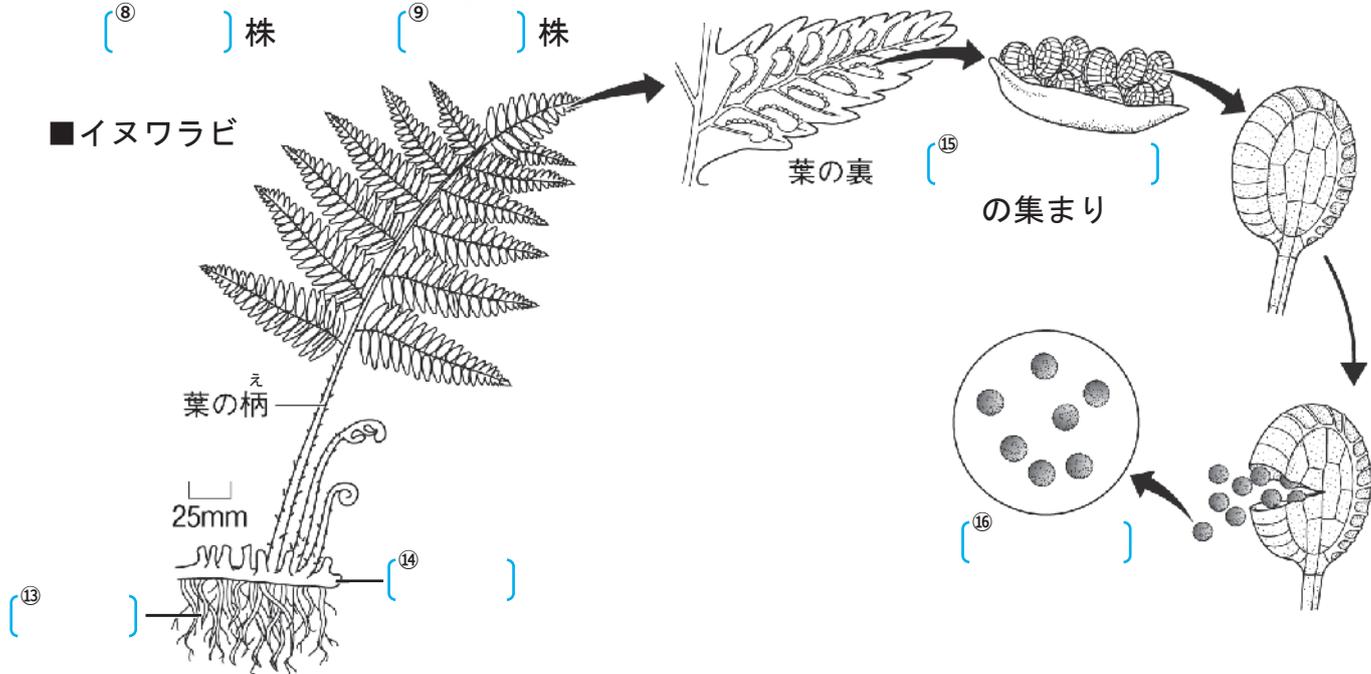


# 植物の体の共通点と相違点(5)

【1】次の図はコケ植物とシダ植物のからだのつくりとはたらきを表している。〔 〕に当てはまる言葉を□から選んで書きなさい。ただし同じ言葉を何度使ってもよい。



ゼニゴケやスギゴケのなかまを〔<sup>11</sup>〕植物といい、葉、<sup>くき</sup>茎、根の区別が〔<sup>12</sup>〕。



イヌワラビのなかまを〔<sup>17</sup>〕植物といい、葉、茎、根の区別が〔<sup>18</sup>〕。

お雄	め雌	種子	ほうし胞子	花粉のう	ほうし胞子のう	かこん仮根	そっこん側根
しゅこん主根	しぼう子房	くき茎	根	葉	コケ	シダ	ひし被子
						ない	ある

# 植物の体の共通点と相違点(6)

【1】次の図は、植物のさまざまな特徴を手がかりにして分類した検索表である。〔 〕に当てはまる言葉を書きなさい。

